

春

春といえば菜の花のモンシロチョウと桜のギフチョウが最初に目に浮かびますよね。春いちばんの白い蝶は子供のころはモンシロチョウしか知りませんでしたが、蝶に親しむのにつれスジグロシロチョウという蝶も身近にいることを知りました。この2種はちょっと住む環境が異なりますが都会では同所的に見られます。武蔵野市ではここ数年モンシロチョウが優勢でしたが、今年はスジグロシロチョウが増えて半数以上をしめるようになっています。

この2種はどうも10年サイクルくらいで攻勢の趨勢が回るようで今後はまたスジグロシロチョウが優勢になってくるのかもしれませんが。皆様の自宅まわりではどうなっておりますでしょうか？

ギフの宝庫裏日本や東北地方では昨冬雪が少なくさらに3月中旬ころの温度上昇の継続もあって、今年のギフチョウ発生は早いだらうと予測されていましたが、富山、新潟、山形県では例年より7~10日はやい発生となっています。何せ関越トンネルを抜けた越後湯沢は4月中旬にはいつも雪がびっしりあって真っ白なのに、今年は黒い土肌が見えるところが多く湯沢のギフも5月中旬には盛期を迎えるのではないかと推測されます。

一方、ヒメギフチョウはあまり積雪には左右されないのか、意外と例年通りの発生のように長野県小諸市付近でも4月中旬まだばらばらの発生初期だと聞いております

今後の蝶も少し早目の発生のまま進むと思われそうですが、皆様の蝶ライフが充実することを祈っております。

- * 今年度より会費前年納入制の徹底をはかることをおし進めております。現在2009会費未納者がまだ10数名おります。このままゆきますと6/1日付けで退会扱いとなります。お心当たりの方は至急ご納入くださいますようよろしくお願い申し上げます。

振替 00180-0-67713 グループ多摩虫 一般¥4000 学生、女性¥2000

- * 編集部（主幹、山田成明）では会誌53号の原稿を5/7締めで大募集しております。内容は問いません、短報も歓迎です。皆様の会報です奮ってご参加ください。

- * 新入会員（よろしく願いいたします）

浅井弘 〒344-0023 春日部市大枝135-7 武里団地5-3-308 Tel:048-736-3260

Fax:048-738-3209 携帯:090-8742-2482 ML:spy629a9@chime.ocn.ne.jp

熱田行宏 〒288-0063 銚子市清水町1426 アツタデンタルオフィス

Tel:0479-22-6275 Fax:0479-25-1901 ML:xd43df@bma.biglobe.ne.jp

原田一志 〒192-0044 八王子市富士見町17-21 携帯:090-1112-9352

ML:wdmnr713@ybb.ne.jp

- * 住所変更

森本博 〒102-0082 千代田区一番町15-20 一番町フェニックスビル201号

その他変更なし

* 退会 (3/31)

浦野博 金沢勝 指田春喜 朝長政昭

* 新聞紙上より

ミヤマシロチョウ 巣作り環境整備 八ヶ岳ふもと住民ら

長野県・八ヶ岳連峰で明治時代に発見されたミヤマシロチョウの写真。グライターのように優雅に空を舞う高山チョウを絶滅の危機から守ろうと、住民らが保護活動に乗り出した。



茅野ミヤマシロチョウの会提供

半透明の羽を広げると、5、6センチほどの大きさで、標高1400〜2000メートルに生息する。かつては山梨、群馬県などでも見られたが、1960年代以降に生息数が激減。今では、八ヶ岳連峰、浅間山系、南アルプスでしか見られないという。原因は、山に人の手が入らなくなると高木が生い茂り、日光を遮ること、ミヤマシロチョウの幼虫が食べる低木のヒロハヘビノボラスや、成虫がミツを吸うクガイソウが減ったから。環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に分類される。

守る

「越冬巣」をいくつも見つけた。冬を乗り切るため、体長約5ミリの幼虫20〜100匹が一体になって糸を吐き、長径10センチほどの卵形の巣を作るのだ。「成虫になると、羽を動かさず、グライターのように風に乗って優雅に飛ぶんです」と山本さんは魅力を語る。会では、クガイソウを植えるほか、全球測位システム（GPS）も使ってヒロハヘビノボラスの山中での正確な位置を把握し、巣を作りやすい環境を調査している。

ミヤマシロチョウは県の天然記念物に指定され、条例で採取が禁止されている。茅野市で昨年3月に発足した「茅野ミヤマシロチョウの会」では、採取しないよう求めるパトロール力を入れる。会員の宮下りよさん(32)は「ミヤマシロチョウを守ることが、高山の生態系保護につながる」と意義を語っている。

オスのロマンは養分

モンシロチョウのメスは基本的に生涯に一度しか交尾しない。うらやましいと思うか、悲しすぎると思うかは人それぞれだろうが、なぜ一度きりの交尾で沢山の子孫を残すことができるのだろうか。

モンシロチョウのメスの生殖器には受精のうという袋がついていて、オスからもらった精子を、生きたままかなり長期間ここに貯えておくことができるのである。一度交尾すれば、体内のすべての卵を受精させるのに十分な数の精子が得られるので、それ以上交尾する必要がないのだ。



池田清彦 流 交尾が済んだメスは、オスが近づいてくると尻を高く持ち上げて、交尾拒否の姿勢をとる。モンシロチョウの交尾の姿勢は遺伝的に決まっているので、こうなるとオスはあきらめる他はない。中には拒否しているメスの回りを未練がましく飛び廻っているオスもいるが、見ている当方としては人生(虫生)あきらめが肝心だよ、と声のひとつもかけなくなる。

しかし、例外はどこにでもあるもので、複数回交尾するメスもいるという。タブーを破るほどステキなダンディーが現れたのだろうか。実は、受精のうに貯えてある精子を吸収して栄養にするためという説が有力だ。ロマンチックじゃないのね。

(生物学者)

オスの流儀

池田清彦



09.4.14

とさえないでもない。

(9) 人間から見ると愛情が少し足りないんじゃないかな

(生物学者)

春の女神の貞操帯

ギフチョウという年に一度、桜の咲く頃にだけ現れる蝶がいる。黄と黒のだんだら横線の優美な姿から、春の女神と呼ばれている。好んでカタクリやスマシレの花を訪れて吸蜜する様はまことに可憐である。

しかし可憐な姿に似合わず、この蝶のオスはなかなかあげつないことをするのだ。オスは低く飛んで羽化したばかりのメスを探す。処女のメスを見つけると舞い降りて交尾をする。交尾の姿勢は、互いに後ろ向きになって尻と尻を合わすという、ちょっと即物的な感じのもので、愛情はともかく独占欲だけは強いのだ。ギフチョウの模様には似た物を置いておくと、まれにこれと交尾をして貞操帯をはめるフェティッシュな奴もいる。春の女神が貞操帯をはめて飛んでいると思うと、ちょっとどきどきしませんか。

(生物学者)

川村俊一さん体験記を出版



子供のころ、昆虫採集をした経験のある人は多いだろう。それが高じてプロになった人たちがいる。昆虫標本商、通称を「虫屋」という。そのひとり、川村俊一さん(49)が、インドで蝶を採集していて拘束された体験を記したノンフィクション『虫に追われて 昆虫標本商の打ち明け話』(河出書房新社)を出版した。知られざる世界の興味深い話がつづられている。(松垣透)

川村さんは「虫屋」(本書では昆虫家と表記)のなかでも蝶を専門に扱うので「蝶屋」と呼ばれている。辞書にも載っていない「虫屋」という言い方を、本人たちは少し誇らしげに口にする。

「虫屋は全国に20人から30人くらい。やっと生活ができるくらいの収入で、好きじゃないとできない。自分もお金があれば標本を買いたくらいです」
小学4年生のころから蝶をとって

インドで捕まった「虫屋」

09.2.22 産経

は収集していた。大学生のときに通学途中の標本店でアルバイトに雑用をするように。それが、プロ入りのきっかけに。日本国内だけでなく海外にも足を伸ばし、25年かけて集めた「在庫」がいま、自宅に1万頭以上。そのなかには、川村さんの名前のついた蝶も10頭ほどいる。

インド・ダーシリンで「昆虫ヲ許可ナク採集スルベカラズ」という法律に触れて逮捕された事件は、あまり思いだしたくない出来事だ。13年前。結婚した直後だった。

「驚いたのは拘留所の環境。むき出しのコンクリートに囲まれ、床に30センチの穴があいている。家具は家畜小屋から持ってきたムシロが1枚だけ。雨期で常に床がぬれていました」
毎食与えられるのは激辛カレーばかりで、ほとんど食べられない。着替えもなく、皮膚病にかかり、発熱も。自殺さえ考えた。

「一番辛かったのは情報がなかったこと。先のごことがまったく分からなかった」

判決は懲役1カ月半と罰金が当時のレートで約30000円。すぐに釈放されたが、げっそりとやせていた。その後、インドには足を踏み入れていない。事件については語りず、思いだすことも拒否してきた。それだけ強烈な体験だった。

「でも、助けてもらった人たちのおかげで今の自分がある。そのことを書いておきたくて」と、出版を決意した。
苦しい思いをしても、まだ「虫屋」を続けている。「虫屋になったことは後悔していない。給料をもらってみたいと思ったこともありましたが、今はもう他の仕事は考えられない。これが天職です」と、川村さんは言う。

